

従来計画（京橋川）

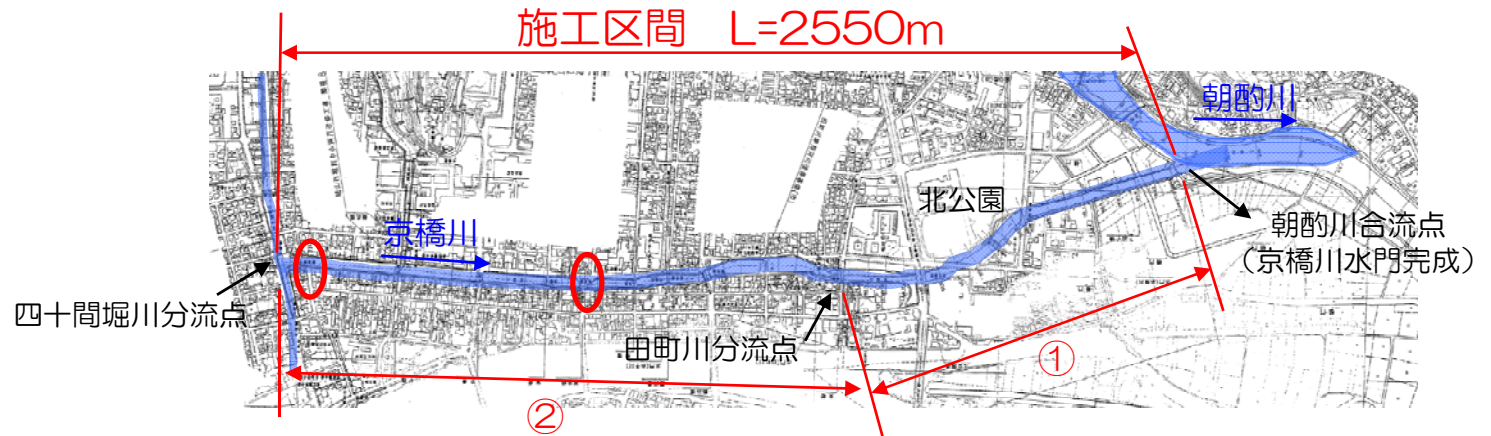
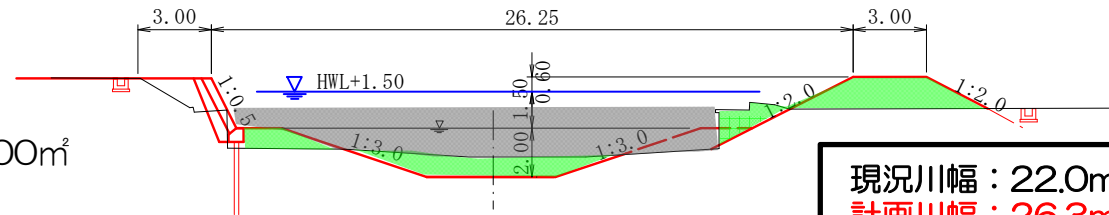
横断面図は現計画

□ 現計画の内容

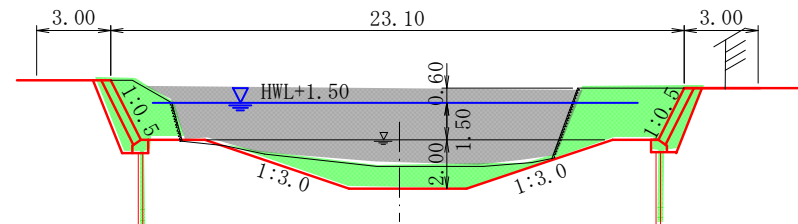
〔河川改修〕 延長：L=2.6km

〔主な補償内容〕 用地買収面積：A=約12,300m²
家屋移転：68戸

【①朝酌川合流点～田町川分流点】 一部改修済み



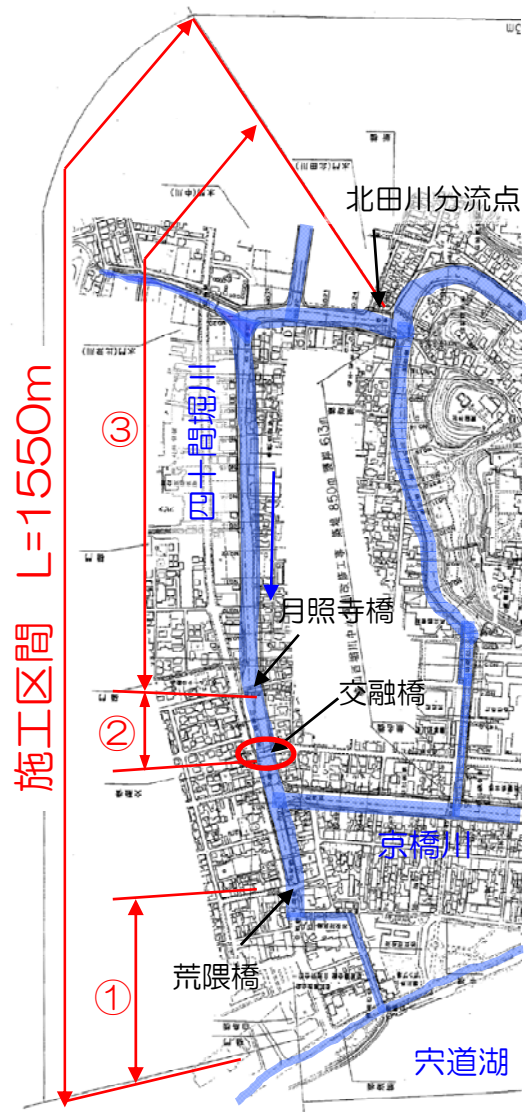
【②田町川分流点～四十間堀川分流点】 未改修



現況川幅：18.0m
計画川幅：23.1m

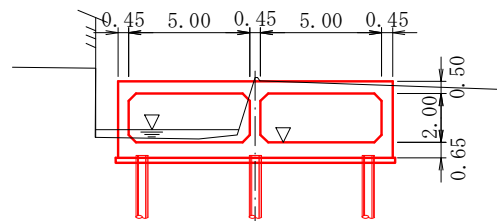
従来計画（四十間堀川）

横断図は現計画



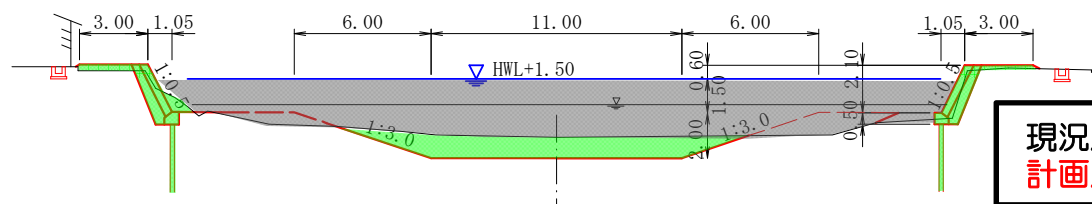
□ 現計画の内容

【① 穴道湖合流点～荒隈橋下流】 完成区間 〔河川改修〕 延長：L=1.6km



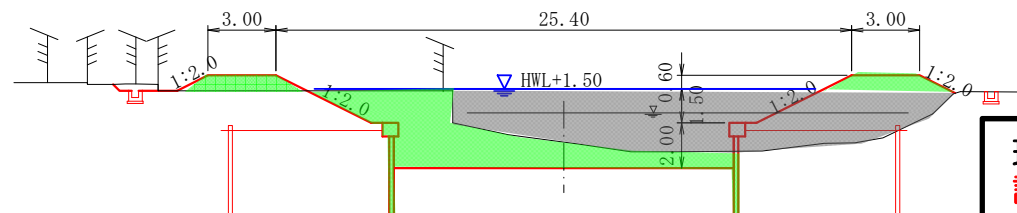
〔主な補償内容〕 用地買収面積
A=約14,000m²
家屋移転：46戸

【② 交融橋～月照寺橋】 未改修



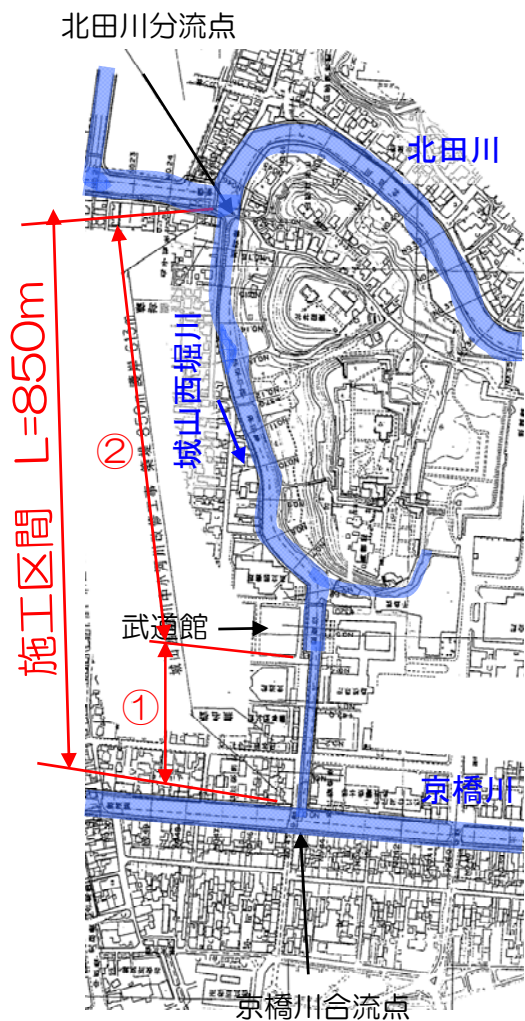
現況川幅：36.0m
計画川幅：36.0m

【③ 月照寺橋～北田川分流点】 未改修

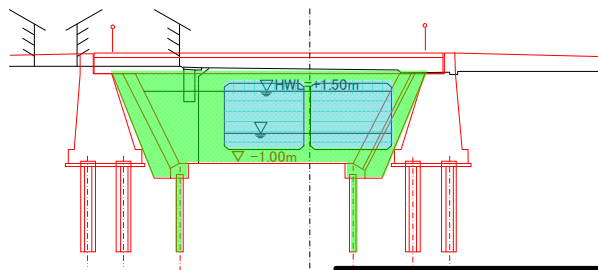


現況川幅：17.0m
計画川幅：25.4m

従来計画（城山西堀川）

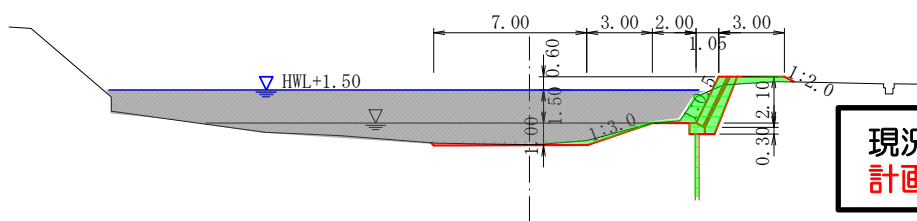


【①京橋川合流点～武道館付近】 未改修



現況川幅：5.8m
計画川幅：9.1m

【②武道館付近～北田川分流点】 未改修



現況川幅：28.0m
計画川幅：28.0m

□ 現計画の内容
〔河川改修〕 延長：L=0.8km

〔主な補償内容〕 用地買収面積
A=約2,000㎡
家屋移転：12戸

京橋川・四十間堀川・城山西堀川の特徴と選択

□各河川の特徴と選択

各河川毎に特徴を整理した結果、全面的な河川改修は行わず、局部改良（京橋川・四十間堀川）の有無を他の治水対策と組み合わせることとしました。

【局部改良】 河道幅員はそのままに、狭小部となっている橋梁を河道幅で改良。（掘削や護岸整備も伴わない。）

【京橋川】

- ・堀川遊覧区間。
- ・繁華街が隣接している。
- ・2橋梁が前出しによりネックとなっている。



選択（局部改良・現況）

【四十間堀川】

- ・京橋川の上流にあたる。
- ・1橋梁が前出しによりネックとなっている。



選択（局部改良・現況）
選択は京橋川に準じる

【城山西堀川】

- ・堀川遊覧区間。
- ・京橋川の上流にあたる。
- ・ネックとなる橋梁はない。
- ・他の2河川に比べて小さい。



現況

局部改良とは（京橋川、四十間堀川）

京橋川は、狭小部に繁華街が隣接する上、堀川遊覧のメインコースの一つであり、全面改修は社会的影響が大きい川となっています。一方、橋梁部は、前出しされている箇所があります。そこで、前出しされている橋梁部を上下流の川幅に合わせて拡幅することをいいます。また、四十間堀川は京橋川の上流にあたるため、京橋川に合わせ局部改良を行います。



②筋違橋（下流側）



①東京橋（上流側）



③交融橋（上流側）



河川改修（京橋川他）の特徴と選択

<p>概 要</p>	<ul style="list-style-type: none"> 京橋川は、狭小部に繁華街が隣接する上、堀川遊覧のメインコースの一つであり、全面改修は社会的影響が大きい川である。一方、橋梁は前出しされており、橋梁の河道見合いの架け替えでも、ある程度効果が見込まれる。 そのため、選択肢を【局部改良】（ネックとなる橋梁の改良）および【現況】とし、【河川改修】は考えない。四十間堀川と城山西堀川は、ともに京橋川の上流にあたるため、選択は京橋川に準じる。（検討条件の絞り込み） <u>これらの選択肢を適宜、他の治水対策と組み合わせる。</u> 		
<p>河 川</p>	<p>京 橋 川</p>	<p>四十間堀川</p>	<p>城山西堀川</p>
<p>河川の特徴</p>	<ul style="list-style-type: none"> 堀川遊覧区間である。 繁華街が隣接している。 橋梁が前だしによりネックとなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 京橋川の上流。 従来計画の掘削河床高は京橋川と同じ。 交融橋が前出しによりネックとなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 京橋川の支川。 従来計画の掘削河床高は京橋川と同じ。 ネックとなる橋はない。 四十間堀川に比べ、小さい。
<p>改修の 選 択</p>	<p>【局部改良】 ネックとなる橋梁部のみ前後の河道幅で改良。 【現況】 現状維持。</p>	<p>【局部改良】 ネックとなる橋梁部のみ前後の河道幅で改良。 【現況】 現状維持。</p>	<p>【現況】 現状維持。 ※ネックとなる橋梁なし</p>
<p>改修の特徴</p>	<p>【局部改良】</p> <ul style="list-style-type: none"> 移転家屋がなく、堀川遊覧への影響は限定的。 橋梁架替計画と調整することで効率化が図れる。 	<p>【局部改良】</p> <ul style="list-style-type: none"> 移転家屋がない。 橋梁架替計画と調整することで効率化が図れる。 	
<p>組み合わせの 考え方</p>	<ul style="list-style-type: none"> 京橋川が下流であり、他の河川（四十間堀川・城山西堀川）の改修効果は京橋川の改修の有無に影響される。よって、上記3河川は1つのグループと考え、改修形態はセットで考える。（【部分改修】か【現況】か） 		

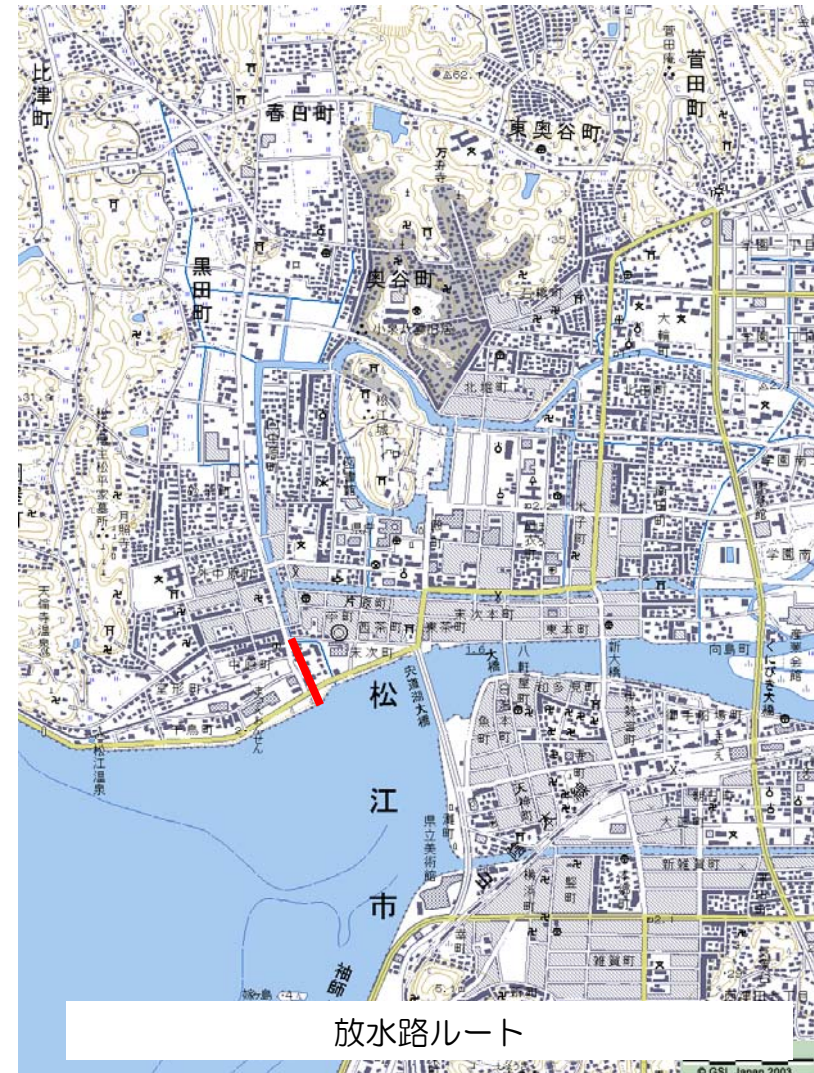
放水路の選択

四十間堀川の京橋川分流点から直接穴道湖へ洪水を分流する放水路を計画します。

□放水路の選択

- ・ケース1（B1.55m×H2.00mー単ボックス）
市道下へボックスカルバートを設置。
地下埋設物（下水管、電線共同溝等）を移設しない。
- ・ケース2（B3.45m×H2.00mー2連ボックス）
市道下へボックスカルバートを設置。
地下埋設物（下水管、電線共同溝等）を移設する。
用地買収を要しない最大幅。
- ・ケース3（B6.00m×H2.00mー2連ボックス）
市道下へボックスカルバートを設置。
地下埋設物（下水管、電線共同溝等）を移設する。
河道整備での用地買収を生じなくする放水路幅。
放水路区間では、用地買収、建物移転を伴う。

いずれのケースも穴道湖への流出は、千鳥南公園内となる。



放水路ルート

各放水路の特徴

概要	放水路は市道埋設物の移設と関係が大きいいため、大型埋設物（下水道本管・電線共同溝）の移設の有無と用地補償の有無を観点に3ケースを選択肢とした。 <u>これらを適宜、他の治水対策と組み合わせる。</u>		
方策	ケース1	ケース2	ケース3
放水路諸元	B1,55m×H2.00m 単ボックス	B3.45m×H2.00m 2連ボックス	B6,00m×H2.00m 2連ボックス
各対策の概要	<ul style="list-style-type: none"> 市道に埋設してある下水道本管・電線共同溝の移設を伴わない案。 	<ul style="list-style-type: none"> 市道の地下埋設物を全面的に再配置し、市道内で放水路断面を極力大きくする案。 下水道本管・電線共同溝の移設が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 市道の地下埋設物を全面的に再配置し、かつ用地買収により放水路断面を大きくする案。 下水道本管・電線共同溝の移設が必要。
概算事業費	3.8億円	12.1億円	23.1億円
交通処理	夜間全面通行止（夜間施工）	夜間全面通行止（夜間施工）	夜間全面通行止（夜間施工）
埋設物移設	小規模な移設のみ	全面的移設（下水道本管・電線共同溝他）	全面的移設（下水道本管・電線共同溝他）
宍道湖公園への影響	中	大	大
安全性（共通）	<ul style="list-style-type: none"> 暗渠構造であるため、超過洪水への対応性が弱い。 外水位（大橋川水位）の上昇に対する影響を他の対策に比べ、最も受け易い。 		

※今後、詳細な調査・設計により概算事業費は変更になることがあります。